

研究テーマ	イメージを膨らませ、組み合わせを考えながら創意工夫して楽しむ造形活動の在り方 ～「ふれあいの森林」から集めた宝物（素材）を生かして～
-------	--

大子町立生瀬小学校 教諭 高林 悟子

## I 研究テーマについて

題材「つなぐんぐん」における造形活動では、与えられた材料を使用して、室内の制作や造形活動になることが多い。曜日や日にちをまたいで連続活動を行うと、他学年の活動の妨げになる。伸び伸びと活動する場所も見つけにくい。そこで、他学年の活動の妨げにならずに伸び伸びと活動する場所として、「ふれあいの森林」を考えた。

この「ふれあいの森林」とは本校の敷地内にある森林（裏山）のことである。創立20周年記念の時に、裏山の中心部に上れる階段が設置されて以来、毎年整備が進んできた。去年は創立30周年ということで、更に利用しやすくなった。ここでは、自然に落ちているさまざまな木々を利用して、偶然に見つけた物を利用して作るという工程にわくわく感が存在する。整備された裏山に秘密基地をイメージしながら造形活動を呼びかけたところ、児童達はとても興味や関心を示した。そこで、児童自ら見つけた自然からの贈り物（裏山の木々等）を使って、普段にはなかなかできない体験活動を試みてみた。

## II 研究の実践

1 題材名 ふれあいの森林でつなぐんぐん

2 題材の目標

枯れ木や木や枯れ枝や枯れ葉等の素材をどんどんつないで、つなぎ方や組み合わせを工夫して活動する

3 題材について

(1) 児童の実態

児童は休み時間は元気に遊び、夏になるとカブトムシやクワガタなどに触れ合う。そのため好きな虫を捕るために、保護者や高齢者と近所の山に出かける経験はある。学校の「ふれあいの森林」にも親しみをもっている。しかし、スポーツ少年団に所属する児童が多く、休日の多くは練習や試合に費やされ、自然に恵まれている割には、身近にある森林や山で友達と一緒に遊ぶという経験は少ない。

児童の意識調査 11人調べ

1 ふれあいの森林は好きですか。

好き11人 嫌い0人

2 ひもで結ぶことは得意ですか。

得意3人 少し2人 あまり1人 いいえ5人

3 秘密基地を作ったことはありますか。

ある5人 ない6人

(2) 題材観

「ふれあいの森林」には丸太を利用したベンチと椅子が26年度及び28年度と増設され全校児童が全員着席できるようになった。児童達は生活科や、おはなし会の読書活動などで使用し、「ふれあいの森林」に親しみを持っている。今年度から「ふれあいの森林の音楽会」が始まり、活用度合いが高まった。環境の整備が進み使いやすくなった「ふれあいの森林」には、多くのブナやくぬぎなどの雑木林が広がり、枯れ木や枯れ枝や枯れ葉がふんだんにある。「ふれあいの森林」のほどよく整備された木立と空間を利用しての造形活動が、十分可能であると考えた。

(3) 指導観

学校の裏山である「ふれあいの森林」の、整備された木立と空間を利用して行う造形活動は、児童が大好きな秘密基地を作るようなわくわく感を与えてくれる。裏山の自然豊かな立地条件で、雨風などの気候条件と虫や野生の生物の危険を回避することを考慮した上で、開放感を感じながら伸び伸びと活動が見込まれると考えられる。制作の続きも他学年に迷惑をかけずに行うことができるので、気兼ねなく活動が行えるのも魅力の一つである。

4 題材の評価規準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
木や枝などをつないだり、組み合わせたりする活動に興味を持って取り組もうとしている。	場所考えながら、素材をつないだり枝などをつないだり、組み合わせたりしてできる面白い形を思いついている。	手の感触を十分に働かせ、材料の特徴を生かしながら、つなぎ方や組み合わせを工夫している。	つないでできる形の良さや面白さ、友人の表現の面白さを感じ取っている。

5 指導と評価の計画（7時間取り扱い）

時間	学習内容・活動	評価規準・評価方法
第1次 ①	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふれあいの森林に入り、立っている木々と空間を見渡し、場所を決める。</li> <li>イメージを広げながら落ちている木の棒や木の枝などを集める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふれあいの森林に落ちている木の棒や木の枝などを興味を持って集めることができる。</li> </ul> (関)・観察
第2次 ④	<ul style="list-style-type: none"> <li>中核になる立木と場所を決める。</li> <li>拾い集めてきた木々の中から長さや太さをとらえつないだり組み合わせたりして作りたいもののイメージを持って造形活動を行う。</li> <li>まとまったイメージに応じて更に必要なきや枝を選んだり、探しに行ったりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>拾い集めてきた木々を組み合わせたりして造形活動を行うことができる。</li> </ul> (発)・観察

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木のつなぎ方の工夫について友人と交流する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほかのグループの作品を見て良いところを見つけ合う</li> </ul> <p style="text-align: right;">(鑑・観察)</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その中で新しくイメージをふくらませて作品を新設したり，思いついた活動をする。木をつないでできた造形物にカラービニル袋を使って楽しく飾り付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほかのグループの作品を見て新しく思いついた作品を創作する。</li> </ul> <p style="text-align: right;">(創・観察)</p>
第3次 ②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出来あがった造形物をお互いに見せ合う。</li> <li>・友達の作品を見たり触れ合ったりして，作品の中でくつろいだりして，作品に接して楽しむ。</li> <li>・意見交換をしながら活動について振り返る。</li> <li>・1，2週間程展示した後，グループごとに後片付けをするように指示し，活動場所の原状復帰を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の作品を見たり触れ合ったりして出来あがった造形物をお互いに見せ合う。</li> </ul> <p style="text-align: right;">(鑑・観察・ワークシート)</p>

## 6 指導の実際

### (1) ねらい

○ 木々や木の枝等を使用し，ひもの結び方やつなぎ方を工夫して，大きな物を作り出す。

### (2) 準備・資料

- ・軍手      ・はさみ      ・麻ひも      ・スズランテープ各色      ・カラービニル袋
- ・枯れ枝      ・落ち葉（枯れ葉）      ・段ボール

### 造形活動

ふれあいの森林での造形活動

- ① 作品を作る場所を押さえる
- ② それぞれが森林の中を探索し，気に入った木や枝をを採って集めてくる。





③ 集めた材料の中から材料を選び出し、麻紐等を使って々を結びつけ、イメージに合った作品図作りをしていく。



④ 友達と相談したり、意見交換をしたり、協力しながら造形活動を行う。





### Ⅲ 研究の成果と課題

#### 1 成果

##### 図工アンケート

(7月19日4年1組11名対象)より

- ① 造形活動は楽しかったですか
  - ・楽しかった。(全員)
  
- ② 造形活動で楽しかったことは何ですか
  - ・森の中でできたこと
  - ・作ったのが楽しかった。
  - ・外で学習ができて良かった。
  - ・みんなで秘密基地を作れて良かった。
  - ・みんなで協力できたのが良かった
  
- ③ 難しかったことは何ですか
  - ・木を組むのが難しかった。
  - ・木をまっすぐにつないでいくのが難しかった。
  - ・ひもを結ぶこと
  
- ④ 工夫したことは何ですか
  - ・屋根をつけるのを工夫してやった。
  - ・木を集めて立てたこと
  - ・木と木の間に更に木を差し込んだこと
  - ・ひもをどうやって結ぶか
  - ・ビニルを貼ったところ
  
- ⑤ 友達の作品を見て感じたことは何ですか
  - ・木と葉だけで作れたのがすごい。
  - ・上手に作れてすごかった。
  - ・生えている木を利用した。
  - ・ちやんど丈夫にできているな。
  - ・おもしろい
  - ・すごかった。
  - ・男子が集めた枯れ木でテントを作ってすごいなと思った。



今回の造形活動は、次時の予告を行った時点から児童の目の輝きが違ったように感じた。昨年度も計画していたが、時期や環境が整わなかった為、「ふれあいの森林」が利用できず計画を断念した。2年越しの提案であった。

本年度は、雨や虫や野生の生物の危険を回避しながら実行することができた。4年生の活動を見た5年生からも「いいな」といった声が聞こえてきた。

4年生の児童達もこの活動をととても喜び、楽しみにしていた。活動が始まると活動時間はあっという間に過ぎて、すぐに次の活動日を心待ちにするという状態であった。活動後の児童のアンケートでも全員が「楽しかった」と答えている。やはり野外での活動にも魅力を感じたようである。落ちている木や葉だけで大きな作品を作ったことにも自信をもったようだ。生えている木をそのまま利用し、後は落ちている木や葉をうまく結びつけていくだけで作品ができ、しかも思ったより丈夫な作品ができた。自然に落ちている物を頼りに大きな造形物を作る体験は大変さを乗り越え貴重な体験活動となった。

## 2 課題

今回は児童の希望を聞き、男子6人、女子5人の2つのグループで活動を行った。途中で中間発表的に交流会を持ってお互いに作品を見せて、交流を行った。

アンケートの結果にも分かるように、児童は全員が意欲的に活動に参加した。思い思いの枯れ木や枯れ枝を集めたりとても生き生きと活動していた。しかし、麻紐等を使って木々を結びつけるのは大変で、苦勞しながらなんとかくりつけていた。普段、ひもで縛るという体験が乏しいなか、工夫してやっていくものの、イメージのようになかなかつながらずに悪戦苦闘していた。中にはどんどん作品を作っていく児童も見られた。それまでの体験活動の経験により、つぎつぎと作り出していく児童とお手伝いにまわる児童と、役割分担ができた。材料集めに専念してしまう子もいたので、5～6人のグループではなくできることなら2～3人のグループにしようと思ったが、紐で結ぶことが困難な児童も居て現実的は2～3人での制作は難しいようであった。グループの構成人数やどんな構成メンバーにするかは、今後の課題である。

また、枯れ木や枯れ枝を使っての創作活動よりも、飾り付けのビニルの方に取っかかりかかってしまう児童もいたので、飾り付け用のカラービニルは、後半に出した方が良かったと反省した。